

第7回アジア・スマートシティ会議における「横浜宣言」

私たちは、アジアにおけるスマートで持続可能な都市の成長を実現するため、都市間協力や、都市と国際機関との連携を強化することを目的として、過去7年間にわたって「アジア・スマートシティ会議」を開催してきました。

この間、「持続可能な開発目標（SDGs）」、「ニュー・アーバン・アジェンダ」、「パリ協定」などの国際的な目標が採択され、また近年では、ゼロ・カーボンという高い目標に向けた都市の連携が進むなど、国際社会では、持続可能な成長に向けた動きが加速しています。こうした中、市民の暮らしを直接的に支える都市の果たすべき役割は、一層大きくなっています。また、住みやすい都市に向けて、包括的で生活の質を向上させる革新的なソリューションを共に創造するために、協働プラットフォームを土台として、政府や民間部門と共に計画を立てるなど、市民の積極的な参画も必要です。

今回の会議では、「共創による革新に向けたマーケットプレイス」をメインテーマとして、水、廃棄物、交通、省エネルギー、防災などの都市課題に加え、AIをはじめとした新たなテクノロジーが都市に与えるインパクトについて、都市課題とソリューションが一体的に議論されました。

また、パネルディスカッションでは、包括的な都市開発、革新的な技術に関する知見の共有と、今後の方向性を議論しました。こうした議論を踏まえ、全体会では、国境を越えて多様な主体が連携することにより、学び合うことの重要性について理解を深め、参加者は以下の考えに至りました。

多様な参加者による多角的な議論は、効果的で革新的なソリューションを生み出す源泉です。「アジア・スマートシティ・アライアンス」のようなプラットフォームについて、Peer to Peer（複数の主体による多角的なつながり）を強化し、アイデアや経験、イノベーション事例を交換する理想的な場として機能させます。その際、新たなテクノロジーを適切に取り入れながら、持続可能な都市の成長を目指します。また、この会議を通じ、持続可能な都市を共に創るという開発目標を達成するにあたって、民間部門のパワーと潜在的な可能性を認識しました。

私たちは、この宣言の内容を、今年12月にポーランドで開催されるCOP24（国連気候変動枠組条約第24回締結国会議）をはじめ、関係する国際会議において報告します。